

月債一般募集分(230億円)については前月からの持越し需要もあって好調な売れ行きをみせており、利下げ(応募者利回り7.034→6.717%)の影響はほとんどみられなかった模様。

6月の金融債は、各行が長期資金需要の停滞をながめ、引き続き発行を抑制したため、月中純増額は731億円と前月(732億円)並みにとどまった。

6月の株式投信は、設定が個人投資家層のボーナス運用を背景に502億円(前月386億円、前年同月430億円)と好調であったことに加え、解約・償還が214億円(前月232億円)と低水準にとどまったため、月中元本純増額は288億円(前月155億円)と本年1～5月平均(126億円)を大幅に上回り、44年12月(295億円)以来の高水準を示した。

一方、運用面をみると、昨年10月以来売越しを続けてきた国内株がボンド・ショックによる株価低下局面で積極的に買い進まれ、8ヵ月ぶりに買越し(64億円、前月は42億円の売越し)に転じ、また、外国株は外国株専門投信の組入れ進捗から引き続き67億円の買越し(前月135億円の買越し)となっている。

6月の公社債投信は、月中元本純増額152億円と前月(89億円)を大きく上回ったものの、ボーナス月としてはやや低調であった(ちなみに、前年同月は189億円)。これは各社が予想分配率引下げを見越しかたがた一段と玉不足傾向が強まっている状況に対処し、募集を継続の累積投資分にしぼり、新規分を極力抑制したことによるものである。

## 実体経済の動向

### ◇製品在庫の減少続く

(生産—このところ増勢はやや鈍化)

6月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比、速報)は、前月(+0.5%)に引き続き+0.7%の増加となった。3ヵ月移動平均値の前月比でならしてみると、3月+1.0%、4月+0.9%のあと、5月は+0.3%と増勢を持続してはいるものの、このところやや伸びが鈍化している。原計数の前年同月比では、前年6月が春闘スト後の反動増を示したため、+8.1%と再び10%台を割り込んだ(5月同+12.7%)。

特殊分類別にみると、前月伸びの大きかった一般資本財(-1.4%、化学機械、ポンプ、コンベアが中心)、資本財輸送機械(大型トラック、二輪自動車<125cc超>が主因)がかなりの反動減を示したほか、建設資材(-0.2%、橋りょう、みがき板ガラスが中心)も微減となった。反面、耐久消費財(+0.9%、エアコンディショナ、乗用車<360cc以下>、脱水洗たく機)、非耐久消費財(+1.3%、

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	46年				47年		
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4月	5月	6月
鉱工業	221.8	230.0	229.8	238.1	242.1	243.2	244.9
指数							
前期(月)比	-1.2	3.7	-0.1	3.6	-0.2	0.5	0.7
前年同期(月)比	2.9	4.1	4.3	6.1	7.9	12.7	8.1
投資財	-4.3	3.0	-0.6	-6.5	-3.4	2.5	-0.7
資本財	-5.6	3.1	-0.8	8.0	-4.4	2.4	-0.8
同(輸送機械を除く)	-8.8	1.1	-1.6	10.9	-6.7	2.8	-1.4
輸送機械	3.0	7.5	1.3	1.5	-0.8	3.2	—
建設資材	-0.4	2.7	0.2	4.0	0	1.8	-0.2
消費財	2.3	3.3	1.5	1.2	4.3	-2.7	1.5
耐久消費財	1.2	8.1	3.8	3.4	0.6	-0.7	0.9
非耐久消費財	2.4	-0.3	-0.2	0.1	6.0	-3.9	1.3
生産財	-0.8	4.6	-0.5	2.2	0	1.0	0.8

(注) 逡産省調べ、47年6月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

陶磁器<生活用>、塩ビ製品)が増加に転じたほか、生産財(+0.8%)は非鉄金属、はん用内燃機関、ポリエチレン、板紙等の増加を中心に続伸した。

(出荷—海員ストの影響などから6月はかなりの減少)

鋳工業出荷は、5月大幅増加(+3.3%)後、6月は-1.6%とかなりの反動落ちを示した(原計数の前年同月比+7.5%)。3ヵ月移動平均値の前月比でも、5月は-0.2%と昨年11月以来久方ぶりに減少した。もっとも当月の減少には、船舶の落込み(船舶を除く出荷では-0.9%)、海員ストなど特殊要因も響いており、実勢は表面計数よりもかなり小幅な減少とみられる。

特殊分類別にみると、生産財(非鉄金属、はん用内燃機関等)が増加、粗鋼、塩ビ樹脂等が減少、非耐久消費財(陶磁器<生活用>、紙等)が増加、メリヤスクつ下等繊維二次製品が減少)が前月比横ばいとどまったほかは、各財とも減少している。なかでも、前月伸びの目だった一般資本財(-8.2%、化学機械、ポンプ、普通鋼鋼管が中心)、資本財輸送機械(大型トラック、二輪自動車<125cc超>)が中心)の反動減が大きかったが、建

設資材(-0.5%)、耐久消費財(-0.5%)の落込みは軽微にとどまった。

(製品在庫—引き続き減少傾向)

生産者製品在庫(季節調整済み、前月比)は、5月(-0.7%)に続き6月(速報)も-1.0%とかなりの減少となった。3ヵ月移動平均値の前月比でも、5月は-0.4%と年初来の減少傾向を持続、また原計数の前年同月比でも、6月は-0.4%と38年8月以来はじめてマイナスとなった。

特殊分類別にみると、一般資本財(+1.4%、ポンプ、工作機械、機械プレスが中心)、資本財輸送機械(前月比横ばい)のほかは各財とも前月に引き続き減少した。なかでも、板ガラス類、スチールサッシ、石綿スレートを中心とした建設資材(-1.8%)、粗鋼、繊維各種、塩ビ樹脂、重・軽油等が主因の生産財(-1.2%)の減勢が目だった。

以上のように、6月は在庫がかなりの減少を示したものの出荷の落込み幅がそれを上回ったため、製品在庫率は102.2と前月(101.6)からわずかながら上昇した。

### 鋳工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	46年				47年		
	4~6月		7~12月		1~6月		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
鋳工業	215.5	220.8	219.7	230.5	229.6	237.2	233.4
指 数	0.5	2.5	-0.5	4.9	-2.3	3.3	-1.6
前期(月)比	4.9	4.7	4.6	7.6	6.1	11.1	7.5
前年同期(月)比							
投資財	-0.6	2.0	0.2	7.7	-7.0	7.7	-5.5
資本財	-1.0	1.9	0	9.0	-9.5	9.4	-7.0
同(輸送機械を除く)	-8.2	4.0	-2.7	12.3	-9.9	7.5	-8.2
輸送機械	13.4	-1.9	4.6	5.0	-11.3	13.2	-
建設資材	0.9	2.3	0.9	3.6	1.5	2.9	-0.5
消費財	3.3	1.6	-0.8	3.3	1.2	0.5	0.2
耐久消費財	7.8	5.0	-1.8	2.6	1.7	4.4	-0.5
非耐久消費財	0.5	0.2	-0.2	3.2	0.8	-1.8	0
生産財	-0.2	3.0	-0.4	3.5	0.4	1.4	0

(注) 1. 通産省調べ、47年6月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

### 鋳工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	46年(期別)		47年		47年(月別)		
	6月	9月	12月	3月	4月	5月	6月
鋳工業	238.7	238.8	245.3	241.8	242.7	241.0	238.6
指 数	0.3	0	2.7	-1.4	0.4	-0.7	-1.0
前期(月)末比	19.3	12.4	6.4	1.5	0.7	0.6	-0.4
前年同期(月)末比							
製品在庫率	109.4	105.7	109.4	102.9	105.7	101.6	102.2
指 数							
投資財	8.7	-2.7	0.4	5.5	0.4	-1.6	-1.4
資本財	13.9	-6.1	-1.9	-11.4	2.2	-1.5	-0.4
同(輸送機械を除く)	12.0	-2.5	-4.5	-11.8	1.4	-1.6	1.4
輸送機械	25.0	-21.8	-10.3	-8.1	8.5	-3.3	-
建設資材	1.3	3.0	3.7	3.7	-2.0	-1.4	-1.8
消費財	-3.4	-3.7	4.2	1.7	1.4	-0.9	-0.4
耐久消費財	-10.1	-13.2	5.8	9.5	3.5	-0.8	-0.7
非耐久消費財	4.2	4.0	5.5	-6.5	-0.1	-1.7	-0.9
生産財	-1.8	5.7	1.8	0	-1.1	-0.8	-1.2

(注) 1. 通産省調べ、47年6月は速報。  
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

(原材料在庫——海員ストの影響から6月は大幅落込み)

原材料在庫(製造工業、季節調整済み、前月比)は、海員ストが響いて1月来5ヵ月ぶりに-5.6%の大幅減少となった。このため、3ヵ月移動平均値の前月比も2月+0.4%、3月+0.9%、4月+1.1%と徐々に増勢を強めていたのが、一挙に-0.8%と昨年10月来のマイナスに転じている。

特殊分類別にみると、輸入分(-16.2%)が素原材料(鉄鉱石、マンガン鉱石、銅鉱、鉛鉱、ボーキサイト等非鉄原材料、原油、綿花、羊毛等が中心)の大幅低下を主因に落込みが大きい一方、国産分(-1.2%)も素原材料(粘土、けい石、石綿等が主)の減少から低下に転じている。業種別には、全業種とも減少ながら、とりわけ石油、石炭、非鉄、鉄鋼、化学、窯業・土石等における大幅落込みが目だっている。

この間、原材料在庫率指数は、上記のような在庫の動きに加えて消費も微増したため、88.9と前月(94.3)比大幅な落込みとなった。

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	46年(期別)		47年(期別)	47年(月別)		
	12月	3月	6月	4月	5月	6月
在庫指数	189.7	192.2	187.3	194.0	198.5	187.3
前期(月)末比	0.5	1.3	-2.5	0.9	2.3	-5.6
国産分	0.7	1.6	1.0	0.4	1.7	-1.2
素原材料	3.7	5.1	-0.2	2.2	5.1	-7.1
製品原材料	-0.9	1.6	1.3	0.2	1.5	-0.3
輸入分	-0.1	1.6	-12.1	1.1	3.7	-16.2
素原材料	-0.6	1.5	-12.8	6.5	3.7	-16.9
在庫率指数	92.7	93.3	88.9	93.7	94.3	88.9
国産分	85.8	86.8	85.4	86.7	86.7	85.4
素原材料	118.8	125.3	120.8	125.3	131.3	120.8
製品原材料	79.4	80.4	79.4	80.0	80.0	79.4
輸入分	114.2	112.5	98.9	113.1	116.9	98.9
素原材料	114.7	113.6	98.9	114.4	118.6	98.9

(注) 通産省調べ、47年6月は速報。

(販売業者在庫——5月は微減)

販売業者在庫(季節調整済み、前月比)は、4月

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	46年(期別)		47年(期別)	47年(月別)		
	9月	12月	3月	3月	4月	5月
総合指数	192.0	186.0	182.6	182.6	184.8	183.6
前期(月)末比	1.9	-3.1	-1.8	-7.0	1.2	-0.6
素原材料	-3.4	-4.5	12.3	-4.1	1.7	-1.1
製品	2.1	-3.1	-2.5	-7.2	0.4	-0.6

(注) 通産省調べ、47年5月は速報。

微増(+1.2%)のあと、5月は-0.6%と微減となった。3ヵ月移動平均値の前月比でも、1月+2.1%のあと、2月-0.6%、3月-2.2%、4月-2.2%とこのところ弱含みに推移してきているが、5月の減少については、石油製品等を中心とした海員ストも若干影響しているものとみられる。5月の動きを品目別にみると、鋼材(+2.0%)、非鉄(+19.3%、電気銅、すず、ニッケルが中心)等で増加したほかは、ほとんどの品目で減少、とくに石油製品(-6.4%、ガソリン、灯油等)、洋紙(-6.4%)、糸(-2.7%、綿糸をはじめほぼ全品目)、民生用電気機械(-1.5%、卓上扇風機、電気冷蔵庫)、自動車(-0.4%、軽四輪乗用車、トラック)等の減少が目だっている。

(設備投資——6月の指標はいずれも弱含み)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み、前月比)は、4月-9.9%、5月+7.5%のあと、6月は-8.2%とこのところ一高一低が続いている。3ヵ月移動平均値の前月比でならしてみても、2月+4.9%のあと、3月-0.9%、4月+1.1%、5月-3.9%とやや弱含みとなっている。品目別にみると、建設用金属製品(鋼索、鉄管継手)、電動機、圧延機械、鉄鋼用ロール、機械プレス、農業用機械(歩行用トラクター耕うん機等)が増加したものの、化学機械、風水力機械(ポンプ、圧縮機・送風機)、工作機械、トラクター、非標準変圧器、鉄鋼製品(普通鋼管等)がかなりの減少となった。

機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は、5月増加(+10.7%)のあと、6月は再

び-10.2%と減少した。また原計数の前年同月比も、-21.6%と大幅の低下を示した。当月の減少は非製造業のうち電力の反動減(-55.2%)に負うところが大きく、製造業は、+2.5%と3か月ぶりに微増となっている。

上記受注内容を業種別にみると、製造業では、自動車(-17.9%)、石油・石炭(-13.6%)、造船(-22.0%)、紙・パルプ(-6.2%)等が引き続き減少傾向にある一方、前月まで減少していた鉄鋼(+50.5%)、化学(+38.7%)、繊維(+70.5%)は反動増となった。一方、非製造業では、建設業が前月に引き続き増勢(+3.0%)を保ったほか、鉱業が大幅増(+48.9%)を示したが、前述の電力(-55.2%)をはじめ、農林漁業(-28.7%)等の減少が大きく影響した。

建設工事受注額(民間産業分、季節調整済み、前月比)は、5月+17.2%とかなりの増加のあと、6月(速報)は-21.6%の大幅減少となった(原計数の前年同月比+0.2%)。3か月移動平均値の前月比でならしてみると、5月-5.0%と2月来3か月連続上昇していたのが反落している。当月の落込みは、前2か月増加の製造業および前月大幅増加の非製造業がともにかかなりの反動減を示したことによるものとみられる。一方、官公需は、暫定予算の影響もあって前3か月減少(3月-5.2%、4月-12.4%、5月-19.1%)したあと、6月は

#### 需要先別機械受注の推移

(季節調整済み月平均、単位・億円)

	46年	47年		47年		
	10~12月	1~3月	4~6月	4月	5月	6月
民需	2,317	2,200	1,890	1,987	2,000	1,683
	(-12.6)	(-5.1)	(-14.1)	(-13.0)	(0.7)	(-15.9)
同(船舶を除く)	1,678	1,786	1,785	1,726	1,912	1,716
	(-19.9)	(6.4)	(-0.1)	(-19.3)	(10.7)	(-10.2)
製造業	714	882	789	805	771	790
	(-23.4)	(23.4)	(-10.5)	(-16.9)	(-4.2)	(2.5)
非製造業	1,623	1,320	1,091	1,205	1,218	851
	(-4.0)	(-18.7)	(-17.3)	(-11.8)	(1.0)	(-30.1)
同(船舶を除く)	997	912	1,010	946	1,157	927
	(-13.8)	(-8.5)	(10.7)	(-20.0)	(22.2)	(-19.8)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

+48.4%と大幅増となった。

#### ◇商品市況は回復傾向

7月にはいつてからの商品市況をみると、綿糸、スフ糸、銅、塩素、洋紙は依然弱基調を脱していないが、鋼材、木材(内地材)がかなりの騰勢を示したのをはじめ、セメント、塩ビ、段ボール原紙が堅調を続け、合繊糸、ポリエチレン、石油製品も底堅さを加えるなど、総じて前月後半来の回復歩調を継続した。

これは、生産調整等の市況対策や海員ストの影響による入荷減など供給要因にささえられた面(石油製品、鉛)もあるとはいえ、多くの品目では、①実需が着実に増加していること、②さらに一部の品目では先高を見越した仮需も加わっていること(形鋼、内地材)、③これに対し、供給サイドでも需給ひっ迫をながめて一段と売り腰を強めていること、などによる面が大きいとみられる。

実需の動向をみると、官公需や自動車、家電向け需要が引き続き高水準のほか、民間住宅建設や非製造業の設備投資関連需要も増加傾向をたどっており、また生産活動の回復を映じて、石油製品等では電力向け需要がこのところ上向きつつあるよううかがわれる。

商況の先行きについては、市況がすでにかなりの高水準にまで回復した品目も散見されるため、上昇テンポが鈍化する可能性も予想されるが、官公需の高水準持続が見込まれるほか、民需も徐々に着実に増加しているため、目先夏季休暇入りとはいえ、引き続き現在の回復基調を維持するものとみられる。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……冷延薄板、亜鉛鉄板、くず鉄は保合いを続けたものの、厚板、熱延薄板、H形鋼が急騰したほか、棒鋼、山形鋼等も小幅ながら続騰ないし反発するなど、総じてみればかなりの騰勢を示した。これは、特約店筋で在庫がかなり減少したうえ、受注も官公需、中小企業設備投資関連需要を中心に増加していることから、引き続き在庫手当てを進めているためである。また、高炉製品の

一部(厚板、熱延薄板)では、先高を見越した思惑買いの動きも広がっているようである。こうした状況をながめて、高炉メーカーでは市況過熱を防止するため、7月の生産について粗鋼ベースで約15万トン(当初計画比2.3%)の緊急増産を行なうこととしたが、この程度の増産では現在の納期遅れの状態を若干改善するのが精いっぱいと思われる。

繊維……天然・化学繊維系では、生糸が対中国輸入成約の減少から上伸したほかは、綿糸、羊毛糸、スフ糸とも問屋、機屋筋の糸手当てが一服しているうえ、輸入糸が増勢を続けている(綿糸)こともあって、軟弱な地合いを続けた。一方、合繊糸では、紡績糸段階にはいまだ供給過剩感が残っているものが散見されるものの、原糸・綿については大幅操短や中国向け輸出の好伸(ポリエステル・ステープル)から需給バランスはかなり改善をみており、市況も底堅さを加えている。

非鉄金属……銅は製品市況が引き続き不ざえなことからユーザー筋の地金手当てが依然不活発なため弱含みを続けたが、鉛、亜鉛は精錬業者の市況対策や輸出等にささえられて保合いに推移した。

石油……夏場不需用期入り(灯油、A重油)にもかかわらず、実需がトラック、土木工事向け(軽油)や鉄鋼、電力向け(C重油)を主体に増加しているうえ、元売り各社が海員ストの影響による原油・製品備蓄の減少を見越して売り腰を強めていることから、市況は総じて堅調を継続。

セメント……出荷は、集中豪雨や海員ストの影響から、7月にはいってやや伸び悩んだものの、需要は官公需の高

水準持続や民間住宅投資関連需要の持ち直しから引き続き漸増傾向にあり、かねてからの第2次販価引上げも一部中小ユーザー向けに浸透しはじめている。

木材……天候不順から荷動きはやや盛り上がりや欠いているが、民間住宅建設関係需要が上向いているうえ、供給も集中豪雨の影響や海員ストに伴う入荷減(外材)もあって減少しているため、市況は総じて強含み。

化学品……合成樹脂では、塩ビが引き続き堅調のほか、ポリエチレン、ポリプロピレン等も不況カルテルの効果を主因に底堅さを加えている。また需要面でも、弱電向け(ポリスチレン)の荷動きが高水準のほか、テープ、コンテナ等輸送関連向け(ポリプロピレン等)も若干上向きはじめたようである。一方、基礎薬品類でも塩素、塩酸は依然軟調であるが、かせいソーダ、硫酸は大幅減産の続行から需給関係は引き締まってきた。

紙……洋紙は流通段階の荷もたれ感が依然とし

卸売物価指数の推移

(単位:%)

	ウエイト	前年度比率 上昇		最近の推移(前月(旬)比上昇率)							
		45年度 平均	46年度 平均	47年			47年7月				
				5月	6月	7月	上旬	中旬	下旬		
総平均	100.0	2.4	-0.8	保合	0.1	0.2	保合	0.2	保合		
食料品	15.7	2.4	3.2	-0.2	-0.1	0.2	-0.1	0.4	保合		
繊維品	10.7	5.2	-1.8	0.7	0.4	-0.4	-0.2	0.1	-0.1		
鉄鋼	9.7	2.2	-7.9	保合	0.3	0.7	0.4	0.3	0.1		
非鉄金属	4.4	-7.6	-11.6	-0.6	-1.6	-1.8	-1.1	-0.2	-0.4		
金属製品	3.8	4.2	-0.5	保合	-0.1	0.3	0.1	保合	0.1		
機械器具	22.1	1.5	0.1	-0.1	0.2	0.1	0.1	保合	0.1		
石油・石炭・同製品	5.6	4.5	9.8	0.3	0.3	-0.4	-0.1	0.1	-0.4		
木材・同製品	6.2	3.4	-4.7	保合	0.7	1.7	1.0	0.2	0.9		
窯業製品	3.0	4.8	1.9	0.1	保合	0.1	保合	保合	保合		
化学品	7.6	0.5	-0.2	0.1	保合	-0.5	-0.3	保合	保合		
紙・パルプ・同製品	3.4	6.7	-1.2	0.1	0.2	0.4	保合	保合	0.6		
雑品目	7.9	3.4	0.4	保合	0.4	0.6	0.3	0.2	0.2		
工業製品	82.0	3.0	-0.8	0.2	0.1	0.2	保合	0.1	0.2		
うち大企業性	59.6	1.5	-1.2	保合	0.1	0.1					
中小企業性	21.0	6.5	0.2	0.4	0.2	0.6					
非工業製品	18.0	-0.1	-0.8	-0.3	保合	0.1	0.1	0.4	-0.2		

(注) 日本銀行調べ。

で解消せず、市況も弱保合いを続けているが、段ボール原紙は不況カルテルによる大幅減産に加え、青果、弱電向け需要が比較的好調のため、引き続き強保合い。

砂糖……中元需要が一巡したうえ、供給面でも7月から実施した生産調整の継続が困難視されていることもあって、市況は軟調を継続。

#### (卸売物価——7月は続騰)

卸売物価は、6月に小反発したあと、7月は前月比+0.2%と続騰した。類別にみると、非鉄金属が続落し、繊維品、化学品等も反落したが、鉄鋼、木材・同製品、紙・パルプ・同製品等が騰勢を強めたほか、金属製品、食料品も反発した。産業別では、工業製品が+0.2%と続騰し、非工業製品も農林水産物の反騰から+0.1%と小反発した。

工業製品生産者物価指数の推移

ウエ イト	前年度比上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)			
	45年度 平均	46年度 平均	47年			
			4月	5月	6月	
総平均	100.0	2.5	-0.9	0.2	0.2	0.2
食料品	12.6	4.3	2.9	-0.3	0.3	-0.3
天然および化学繊維	3.6	6.7	-6.6	0.7	1.6	2.3
合成繊維	1.4	-6.8	-15.4	-0.6	保合	0.3
繊維物	2.8	1.5	-3.4	0.6	0.9	-0.1
繊維二次製品	3.2	7.4	2.9	0.3	0.1	0.1
普通鋼鋼材	7.2	0.8	-7.8	1.5	0.2	0.2
特殊鋼鋼材その他	2.5	5.5	-0.3	0.1	0.2	0.1
非鉄金属	4.4	-6.5	-8.7	2.2	-1.2	-1.0
金属製品	4.6	3.1	-1.0	0.1	保合	保合
一般機械	10.4	3.3	1.2	0.6	保合	0.5
輸送機械	8.3	0.2	0.4	保合	0.1	保合
電気機械器具	9.1	1.1	-2.1	-0.4	保合	-0.1
石油・石炭製品	3.7	4.6	9.3	0.5	0.5	保合
木材・同製品	5.0	6.3	-3.3	保合	0.4	1.0
窯業製品	3.4	2.9	1.9	0.2	保合	0.2
化学製品	7.8	-0.2	-0.7	-0.3	0.2	0.3
紙・パルプ・同製品	4.5	6.0	-0.8	0.3	保合	0.4
雑品目	6.1	3.2	0.8	-0.2	-0.1	0.7

(注) 日本銀行調べ。

#### (工業製品生産者物価——6月も続騰)

工業製品生産者物価は、6月も前月比+0.2%と続騰し、1月以来6ヵ月連続の上昇となった。これは、非鉄金属、食料品が下落したものの、天然および化学繊維、木材・同製品、一般機械等がかなり上昇したためである。

#### (消費者物価——7月(東京)は小幅上昇)

7月の東京都区部消費者物価(総合、速報)は、前月保合いのあと、前月比+0.2%と小幅上昇した(前年同月比+5.1%)。これは、食料がくだもの、乳卵、乾物等の値下がりから保合いにとどまったものの、住居(家賃、設備修繕費)、雑費(理髪料、自動車教習料等)が上昇を続けたためである。この結果、季節商品を除く総合でも、前月比+0.3%と引き続き上昇を示した(前年同月比+5.4%)。

6月の全国消費者物価(総合)は、前月上昇(前月比+0.4%)のあと前月比保合いにとどまった(前年同月比+4.4%)。これは、農水畜産物が野菜、生鮮魚介の値下がりからかなり下落(前月比-2.9%)したことが主因で、季節商品を除く総合では中小企業性工業製品(はきもの、酢・乾物等食料品)、サービス(理髪料、洗たく代等)の値上がりから、前月比+0.4%と上昇を続けた。

#### (輸出入物価——ともに反落)

6月の輸出物価は、前2ヵ月続騰のあと前月比-0.1%と小反落した(船舶を除くと+0.1%)。これは、繊維品(ポリエステル長繊維織物、毛糸)、金属・同製品(アルミニウム板、亜鉛地金)等が値上がりしたものの、為替相場の円高傾向が再びやや強まった

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年度比 上昇率			最近の推移 (前月比上昇率)			最近の 前年 同月 比	
		45年度 平均	46年度 平均	47年					
				5月	6月	7月			
消 費 者 物 価	総 合	100.0	6.9	6.0	0.6	保 合	0.2	5.1	
	(季節商品を除く)	91.3	6.3	6.6	0.6	0.7	0.3	5.4	
	食 料	40.3	7.4	5.9	0.3	- 1.2	保 合	4.8	
	住 居	11.8	5.5	3.7	1.1	0.6	0.6	5.2	
	光 熱	3.7	1.1	1.3	保 合	保 合	保 合	- 0.2	
	被 服	12.4	11.0	8.5	1.2	2.6	0.3	5.6	
	雑 費	31.8	5.7	6.7	0.8	0.1	0.4	5.8	
	特 殊 分 類	農 水 畜 産 物	16.6	6.0	1.6	1.1	- 5.2		- 0.8
	工 業 製 品	43.6	8.0	5.5	0.6	1.4		3.8	
	うち 大企業製品	19.8	—	2.6	0.3	0.1		1.3	
中小企業製品	23.8	—	7.9	1.1	2.4		6.0		
サ ー ビ ス	37.0	5.9	7.8	0.4	0.4		7.2		
全 国	総 合	100.0	7.3	5.7	0.4	保 合		4.4	
	(季節商品を除く)	91.0	6.3	6.2	0.5	0.5		4.6	
上 の 都 市 以 下	総 合	100.0	7.4	5.8	0.4	保 合		4.5	
	(季節商品を除く)	91.0	6.4	6.3	0.5	0.4		4.6	
輸 入 物 価	輸 出		3.5	1.8	0.4	- 0.1		- 3.7	
	輸 入		- 0.4	- 1.4	0.3	- 0.5		- 7.2	
	交 易 条 件		1.6	1.0	0.1	0.4		3.8	

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は日本銀行調べ。  
2. 47年7月は速報。

ためである。

また6月の輸入物価も、前2ヵ月続騰のあと前月比-0.5%とかなりの反落を示した。これは、木材・同製品(米つが丸太等)が値上がりしたものの、金属(銅鉱、銅地金)、繊維品(綿花、生糸)等がかなり値下がりし、また為替相場の円高傾向も若干響いたためである。

この結果、6月の交易条件指数(103.5、45年平均=100)は、前月比+0.4ポイントと前月(同+0.1ポイント)に続き好転した。

◇国際収支は海員ストの影響を主因に黒字幅拡大

6月の国際収支は、総合収支が前月の小幅黒字(22百万ドル)のあと、同240百万ドルと、再び黒字幅を拡大した。

これは、長期資本収支が引き続き大幅な流出超

となっているものの、移転収支の赤字幅が縮小(22百万ドル、前月142百万ドル)したほか、海員ストの影響が輸入面にとくに大きく出たことを主因に貿易収支の黒字幅が大幅に拡大(782百万ドル、前月512百万ドル)したためである。

6月の貿易収支を季節調整後でみると、上記海員ストの影響から輸出も減少(前月比-3.7%)したものの、輸入が前月比-11.6%と大幅な減少をみたため収支じりでは760百万ドルの黒字と再び黒字幅が拡大した。

長期資本収支は、244百万ドルの流出超と前月(同257百万ドル)並みの流出超となった。

これは、外国資本が対日証券投資の流入などから前月を上回る流入超(99百万ドル、前月52百万ドル)となったに

もかわらず、本邦資本が国際機関への出資等から前月を上回る流出超となったためである。

金融勘定では、外銀借入れがかなりの増加をみたものの、現地貸付の大幅増加等を反映して、為銀ポジションは月中442百万ドルの好転を示し、月末の負債超過額は477百万ドルとなった。この間、外貨準備高は189百万ドルの減少を示し、月末には15,845百万ドルとなった。

輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は、4月以降前月比減少(4月-1.0%、5月-2.5%)を続けてきたが、6月には海員ストの影響もあって前月比-3.7%と減勢を強めた(原計数の前年同月比+7.2%)。また、通関ベースでの邦貨表示額では前年同月比-8.2%と大きく落ち込んでいる。

品目別(通関ベース)にみると、ラジオ、テーブ

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	46 年	47 年		47 年			46 年 5 月
	10～12月	1～3月	4～6月	4 月	5 月	6 月	
経 常 収 支	2,001	960	1,231	498	189	544	494
貿易収支	2,495	1,690	2,012	718	512	782	648
輸 出	6,672	6,017	6,437	2,210	2,071	2,156	2,011
輸 入	4,177	4,327	4,425	1,492	1,559	1,374	1,363
貿易外収支	△ 410	△ 581	△ 564	△ 167	△ 181	△ 216	△ 137
移 転 収 支	△ 84	△ 149	△ 217	△ 53	△ 142	△ 22	△ 17
長期資本収支	△ 761	△ 759	△ 771	△ 270	△ 257	△ 244	△ 55
本邦資本	△ 630	△ 836	△ 973	△ 321	△ 309	△ 343	△ 196
外国資本	△ 131	77	202	51	52	99	141
基礎的収支	1,240 ( 917)	201 ( 735)	460 ( 557)	228 ( 193)	△ 68 ( 86)	300 ( 278)	439 ( 438)
短期資本収支	△ 347	827	211	60	115	36	144
誤差脱漏	△ 173	△ 53	△ 252	△ 131	△ 25	△ 96	101
総 合 収 支	720	975	419	157	22	240	684
金 融 勘 定	720	975	419	157	22	240	684
外 債 準 備	1,851	1,428	△ 818	△ 128	△ 501	△ 189	683
増 減 他	△ 1,131	△ 293	1,237	285	523	429	1
外 貨 準 備 高	15,235	16,663	15,845	16,535	16,034	15,845	7,599
為 銀 対 外	△ 1,471	△ 1,734	△ 477	△ 1,447	△ 919	△ 477	1,162

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支			通 関		輸 出	輸 出	輸 入
	輸 出	輸 入	貿 易 収 支	輸 出	輸 入	信用状	認 証	承 認
46 年 10 ～ 12 月	2,084 (+ 4.0)	1,360 (+ 7.2)	724	2,115 (+ 4.1)	1,701 (+ 8.2)	1,683 (+ 0.2)	2,205 (+ 2.8)	1,619 (+ 9.5)
47 年 1 ～ 3 月	2,193 (+ 5.2)	1,451 (+ 6.7)	742	2,249 (+ 6.3)	1,803 (+ 6.0)	1,723 (+ 2.4)	2,397 (+ 8.7)	1,734 (+ 7.1)
4 ～ 6 〃	2,164 (- 1.3)	1,461 (+ 0.6)	703	2,207 (- 1.9)	1,824 (+ 1.1)	1,751 (+ 1.7)	2,303 (- 3.9)	1,793 (+ 3.4)
47 年 3 月	2,250 (+ 5.3)	1,507 (+ 9.3)	743	2,329 (+ 6.6)	1,921 (+ 10.4)	1,738 (+ 2.2)	2,358 (- 3.3)	1,717 (+ 0.8)
4 〃	2,228 (- 1.0)	1,545 (+ 2.5)	683	2,290 (- 1.7)	1,922 (+ 0.1)	1,770 (+ 1.8)	2,306 (- 2.2)	1,853 (+ 7.9)
5 〃	2,172 (- 2.5)	1,506 (- 2.5)	666	2,225 (- 2.8)	1,897 (- 1.3)	1,752 (- 1.0)	2,330 (+ 1.0)	1,822 (- 1.7)
6 〃	2,091 (- 3.7)	1,331 (- 11.6)	760	2,106 (- 5.4)	1,653 (- 12.9)	1,732 (- 1.1)	2,274 (- 2.4)	1,705 (- 6.4)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
 2. カッコ内は対前期(月)比増減率(%)。  
 3. 季節調整はセンサス局法による。



レコーダー、光学機械等は好調を持続しているものの、鉄鋼、自動車、繊維品等は前年水準を下回った。地域別では、西歐向けは高水準を続けてい

### 通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	46年		47年		47年	
	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	
食料品	187 (+13)	138 (-5)	146 (-4)	44 (-8)	50 (-16)	
魚介類	93 (-5)	89 (+25)	96 (+31)	30 (+27)	35 (+23)	
繊維・同製品	790 (+11)	609 (+10)	724 (+2)	241 (+2)	245 (-3)	
合繊糸	110 (+28)	81 (+2)	88 (-16)	31 (-14)	28 (-23)	
綿織物	58 (+6)	46 (+21)	58 (+19)	18 (+14)	20 (+19)	
合繊織物	223 (+16)	165 (+11)	193 (+2)	61 (-5)	67 (+3)	
化学製品	391 (+13)	394 (+16)	410 (+11)	134 (+15)	133 (+5)	
非金属鉱物製品	109 (+13)	104 (+26)	117 (+21)	40 (+24)	38 (+14)	
金属・同製品	1,224 (+18)	1,029 (+7)	1,100 (-5)	372 (-4)	361 (-13)	
鉄鋼	934 (+20)	779 (+5)	805 (-11)	280 (-7)	259 (-21)	
機械機器	3,520 (+34)	3,399 (+36)	3,442 (+24)	1,078 (+20)	1,155 (+22)	
(船舶を除く)	3,000 (+36)	2,813 (+40)	3,008 (+26)	976 (+29)	989 (+17)	
事務用機器	113 (+13)	102 (+19)	106 (+17)	33 (+20)	37 (+23)	
テレビ	122 (+13)	124 (+27)	144 (+15)	46 (+2)	50 (+20)	
ラジオ	235 (+21)	199 (+31)	246 (+36)	78 (+31)	91 (+40)	
自動車	782 (+91)	731 (+67)	681 (+23)	234 (+30)	191 (0)	
二輪自動車	199 (+56)	216 (+62)	205 (+43)	71 (+57)	55 (+12)	
船舶	519 (+23)	586 (+20)	434 (+17)	101 (-26)	166 (+65)	
光学機器	166 (+22)	158 (+35)	189 (+34)	60 (+33)	67 (+30)	
テープレコーダー	146 (+14)	128 (+36)	156 (+38)	51 (+32)	55 (+38)	
その他	582 (+14)	492 (+6)	613 (+5)	203 (+13)	211 (+2)	
合計	6,802 (+24)	6,164 (+22)	6,565 (+13)	2,119 (+12)	2,193 (+7)	
(船舶を除く)	6,283 (+24)	5,578 (+22)	6,117 (+12)	2,010 (+14)	2,027 (+4)	

### 通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	46年		47年		47年	
	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	
食料品	860 (+19)	798 (+13)	885 (+28)	314 (+40)	290 (+28)	
肉類	80 (+100)	61 (+142)	82 (+80)	27 (+105)	32 (+138)	
魚介類	159 (+89)	120 (+74)	137 (+66)	50 (+81)	48 (+56)	
小麦	113 (+44)	73 (-19)	92 (+15)	41 (+32)	30 (+31)	
とうもろこし	62 (-21)	62 (-5)	56 (-4)	21 (+4)	16 (-8)	
砂糖	69 (-20)	96 (+3)	116 (+30)	33 (+1)	39 (+57)	
原燃料	2,827 (0)	2,981 (+7)	3,023 (+5)	1,098 (+15)	868 (-11)	
羊毛	68 (0)	88 (+33)	113 (+53)	41 (+56)	34 (+42)	
棉花	122 (+3)	170 (+27)	183 (+26)	65 (+42)	54 (+6)	
鉄鉱石	331 (+1)	310 (-2)	274 (-23)	108 (-15)	68 (-41)	
鉄鋼くず	24 (-63)	22 (-49)	24 (-19)	7 (-44)	9 (+5)	
非鉄金属鉱	231 (-13)	217 (-12)	237 (-11)	103 (+27)	62 (-35)	
大豆	123 (+19)	111 (+2)	119 (+28)	36 (+31)	33 (+5)	
木材	384 (-11)	363 (-6)	438 (+15)	150 (+18)	146 (+9)	
石炭	223 (-25)	248 (-9)	263 (0)	105 (+14)	62 (-24)	
原油・粗油	830 (+34)	921 (+35)	877 (+16)	305 (+23)	254 (-1)	
化学製品	277 (+8)	266 (+8)	256 (+4)	92 (+24)	78 (-8)	
機械機器	590 (0)	725 (+13)	609 (-8)	197 (-18)	219 (+1)	
航空機	65 (+172)	168 (+101)	90 (-35)	30 (-64)	39 (+21)	
鉄鋼	26 (-41)	26 (-34)	23 (-2)	9 (+18)	9 (+32)	
非鉄金属	172 (-17)	191 (+17)	213 (+13)	70 (+22)	69 (-1)	
その他	419 (+27)	430 (+45)	498 (+57)	169 (+78)	166 (+44)	
合計	5,170 (+4)	5,417 (+11)	5,515 (+10)	1,952 (+18)	1,699 (0)	
工業用原料	3,333 (0)	3,551 (+9)	3,616 (+7)	1,309 (+19)	1,057 (-8)	
一般消費財	209 (+24)	220 (+64)	252 (+67)	79 (+69)	85 (+61)	

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

るものの、米国向けが引き続き増勢鈍化を示し、東南アジアを中心とした発展途上国向けも、前月に引き続き前年水準を下回った。

先行指標である輸出信用状接受高(季節調整済み、前月比)は、5月-1.0%、6月-1.1%と減少のあと、7月は+2.9%と増加した。原計数の前年同月比では+2.8%の低い伸びにとどまったが、これは前年7月の著増が響いたためである。

品目別にみると、自動車が米国向けの落込みを主因に欠方ぶりに前年水準を下回ったものの、電気機械、一般機械等が大幅増加したため、機械類全体としてはなおかなりの伸びを示している。このほかでは、食料品が堅調を継続している反面、繊維、化学製品等は不振が続いている。

地域別にみると欧州向け、カナダ・豪州向け等が堅調を継続しているものの、米国向けが前年水準を下回り、アジア向けも依然不振を続けている。

輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は、5月

に前月比-2.5%と減少したあと、6月は海員ストの影響を主因に同-11.6%と大幅な減少をみた(原計数の前年同月比+0.8%、通関ベースの原計数同+0.2%、邦貨表示額同-14.2%)。

品目別(通関ベース)にみると、肉類、魚介類等を中心とした食料品ならびに一般消費財は引き続き好伸したが、鉄鉱石、石炭、非鉄金属鉱、原油等は前年水準を下回った。

6月の輸入承認額(季節調整済み)は前月比-6.4%と前月に引き続き減少し、ならしめても、このところやや増勢鈍化傾向を示している。

品目別にみると、肉類、えび等の食料品や繊維製品等の消費財は高水準を続けたが、鉄鋼原料、機械等が依然前年水準を下回ったほか、原油等も伸び悩んだ。

5月の輸入素原材料在庫(季節調整後)は、前月比+3.7%と増加し、同消費が+0.1%にとどまったため、在庫率は118.6(前月114.4、40年=100)と前月比4.2ポイント上昇した。